

算命学中庸

【初年】 5 1 回目

5 1 回目の授業はこのページからです。

授業科目 【運勢論】

・【初年】 5 1 回目 【運勢論】 01

□ 運勢論 (うんせいろん)

これからは段々と、運勢を観ていく技法の勉強が多くなります。

ここでは「運勢」の勉強をします。

最初に運勢についての考え方で、知っておいて頂きたいことがあります。

〔たとえば〕 なにか失敗したときですが「こうなったのはあの人のせいだ……」と、他人のせいにしてしまおうとか、あるいは「自分がいけなかったんだ……」というふうに自分を責める。ということがあります。

物事がうまくいったときとか、幸運を得たときにも、おなじように、「あの人のお陰で今日がある……」と、感謝することもあるでしょう。

あるいは「自分なりに頑張ったから、ここまでやって来られた」と、自分を誉めることもあるでしょう。

その人によって、個々の考え方があると思いますが、算命学は「なんでこうなったのか……」という根本的な原因を自然界に求めます。

人間は自然物であるという自然思想に基づいています。

自然思想 ⇒ 人間は自然物である

自然思想については、最初の頃にご説明したように、どんな人でも自分の意志で生まれてくる人はいない。

参考：基づく〔ある客観的事実が主材料となって、なにかが行われる。〕

〔自分は男に生まれたい〕とか〔女に生まれたい〕とおもって、^{いま}現在の自分に生まれてきたわけではない。それらの全てが自分の意志とは無関係で、^こ此の^よ世に生まれてきた。そして、人類も自然の産物の一つだというふうに考えているわけです。

このような思想にご異論を唱える方もおられると思いますが、算命学における考え方です。

そして、人間は自然物で、自然の意志によって生まれてきたのなら……なぜ自然が人間を生み出して、自分という人間をこの世に送り出したのか……。

それは“自然が人間に役目を与えた”といえるのではないかと考えたのです。

自然が人間に役目を与えた

〔たとえば〕自分は明るい性格ですが、負けず嫌いで気が強いです。でも、このようなことは得意です。

というふうに、それぞれの特質・個性がありますが、その個性も自分の意志で選んだわけではない。

それなのに、一人一人違った個性をもっているということは「その人物にしか出来ない役目があり、何らかの役目を与えられて生まれてきた」

「宿命どおりとは、その宿命に与えられた役目に生きることである」と、算命学は考えているのです。

自然が人間に **役目** を与えた



宿命どおりに生きること

宿命どおりに生きることが、その人に与えられた役目だと考えているわけです。

〔たとえば〕 人体図ろくぞんせいに禄存星があるとします。

禄存星は魅力本能の星、人に親切で優しい星です。と習いました。ここまでは最初の頃にでてきた算命学の考え方です。

その人物の役目として、禄存星という星を与えられたのであれば、世の中で禄存星の質をしっかりと発揮して、禄存星をい活かすい生き方をすることが、役目を果たすことになります。つまり、禄存星を消化することに

なると考えているのです。禄存星の質を活かして生活している姿を「宿命どおりに生きている」と、算命学は表現するわけです。

あるいは、身強の星をもつ人は、エネルギーをたくさん与えられていますから、強星を与えられていない人よりもエネルギーをどんどん消費する（つかう）^い ^{かた} 生き方をすれば、その宿命そのものが^い 生きてくるし、結果的に世の中にとっても、自然にとっても役目を果たすことにつながる生き方であり、宿命どおりの生き方だとしているのです。

なにか^{ばくぜん} 漠然とした考え方だな……と思われる方もおられるでしょうが、だんだんと理解されるでしょう。

これからは「運勢」を^み 観ていく技法が出てきますが、そのなかには「結婚運に^{めぐ} 恵まれていない宿命」もでてきます。

つまり、結婚運の悪い宿命もあります。

☞ 結婚運の悪い宿命

さきほど、禄存星を与えられた人は、親切でやさしい星だから、しっかりとその星の質を活かして、まわりの人たちに親切で優しく接することが、その人に与えられた役目を果たしていることにつながり、宿命どおりに生きたことにもなります。といたしました。

それを「結婚」に当て嵌めて考えてゆきます。

Bさんという結婚運の悪い宿命の人がいたとします。

Bさんが「宿命どおりに生きなさい」といわれたら、どうすればよいのでしょうか……？

結婚運が悪い宿命の B さんも、宿命どおりに生きないと、与えられた役目を果たせないわけです。

結婚運がよくない B さんが結婚して、夫婦仲も良くて、子供たちも順調に育って、幸せな家庭を築いて生活をしています。Bさんは「宿命どおりに生きた」といえるのでしょうか……。

どういう状況・状態であれば、宿命どおりといえるのでしょうか……。

⇒ 実際に「結婚運の悪い宿命」もあります。

① 結婚運が悪いので、相手に巡^{めぐ}り会^あうこともできず、結婚できなくて、一生独身で寂しく死んで行きましたという人生だとしたら、なんのために生まれてきたのでしょうか……？ おかしいですよ。

② 結婚運の悪い人が結婚しました。

でも、結局うまくいかなくて、結婚は失敗に終わりました。となったら、宿命どおりに生きたといえるのでしょうか……？

そのような生き方で『その人物は役目を果たしました』というのであれば……おかしいです。

③ 「結婚運が悪いから、あなた離婚になったのよ」といわれて、「それでもいいのよ、宿命どおりだから……」と言ったとすれば……やっぱりおかしいですよ。

☞ 「財運の悪い宿命」もあります。

※厳密には「財運」と「金運」は異なります。

④ 財運の悪い宿命の人が「自分は財運が悪いんだよ」といって、貧乏してお金で苦労した人生を送ったら、宿命どおりに生きたといえるのでしょうか？
そういえるとしたら……算命学を勉強した意味が無いのです。

あるいは「健康運の悪い宿命」というのも出てきます。

健康運の悪い宿命

⑤ 健康運の悪い宿命の人が、小さい頃から病弱で早死にしました。「え、あっそう、あの人健康運が悪いから、早く死んで宿命どおりだったね」……これはおかしいですよ。

① ② ③ ④ ⑤ いくつかの例を挙げました。

これらのすべてにいえることなのですが ➡

これらのすべてにイえることなのですが、それぞれの宿命に適合した生き方があります。

結婚運の悪い宿命

財運の悪い宿命

健康運の悪い宿命

これらの宿命に合った生き方がある

結婚運の悪い宿命の人が「結婚で幸せになる方法」があるのです。

財運の悪い宿命の人が、みんなお金で困っているとは、決まっていません。お金で苦勞しない人生にするには、このような生き方をしなさいという生き方があります。

健康運が悪い宿命の人も、みんな早く死ぬわけではないのです。長生きする生き方があります。

⇒ そこで……「結婚運の悪い宿命」を例にして、もう少し具体的に「どのような生き方をすればよいのか」を考えます。

⇒ 「結婚運の悪い宿命」に合う結婚とは……。

結婚運の悪い宿命に合う結婚というのがあります。

結婚運の悪い人だからといって、結婚して不幸になることが宿命どおりではないのです。

結婚運が悪い宿命の人物に合った結婚の姿があります。宿命にあてはまる結婚をしないから……結婚して不幸になってしまうのです。

結婚運の悪い宿命の人が、結婚して不幸になったら、それは宿命に適応していないからです。

「結婚運が悪い」というのは、言葉を変えれば……

「運勢のうえで結婚運が崩^{くず}れてしまう」とか、

「結婚のバランス（つりあい）が悪い」からです。

参考：適応〔ある条件や要求に合うこと〕

参考：崩れる〔実現しないで壊れる〕

「結婚運が壊れている」 「結婚運のバランスが悪い」

このような姿になっている宿命があるのです。

つまり「結婚運が宿命のなかで壊^{こわ}れている」そのような宿命の人物はおられます。

あるいは、その人の結婚運を観ると、とてもバランスが悪い結婚の形かたちになっている宿命もあります。しかしそのような宿命の人物に適合する結婚もあるのです。

☞ 結婚運のバランスが悪い人は、バランスの悪い結婚をすれば、宿命どおりの結婚になります。

ふっあり合いいの結婚をすれば宿命が活いきて、結婚はうまく行きます。結婚運のバランスの悪い人は、釣り合わない結婚をすれば、宿命に合った結婚ということになります。

結婚運が壊こわれているわけですから、それなら壊れた形かたちの結婚をすればよいのです。

それが宿命に適合していることになります。

崩れた形の結婚をすれば、その人は幸せになれます。

そうしますと「壊れた形・つり合いいの取れない結婚」とは……具体的にどのような結婚があるのでしょうか。

つり合いいが取れない結婚

(家柄に大きく差がある)

さっこん
昨今はあまりいないかも知れません。

昔は……殿様がお百姓さんの娘と結婚したら、育った環境も家柄も違いますから、大きく釣り合い(バランス)が取れていないわけです

お殿様のところへ、お百姓さんの娘がお嫁にきたら、その結婚は大変バランスが悪いということになります。このように考えるわけです。

釣り合いがとれていない結婚をすれば、宿命に合っているわけです。

そういう結婚が望まれます。

いま
現在だと、バランスの悪い結婚というのは、どのような形があるでしょう。

再婚の相手との結婚とかは当て嵌まります。

再婚の相手



相手が子連れだとなお良い

その相手(再婚者)との結婚で、相手が子連れだとすれば、それはなお良いのです。

再婚者の相手は、前の旦那か、奥さんとのあいだ子供がいます。そういう相手と結婚したら、この人は他人の子供を育てなくてなりません。そのことだけで最初からバランスが悪いのです。すでにどこか崩れている、どこかが壊れているような結婚だとなるわけです。

最初から他人の子供を育ててはいけない結婚は、まっとうな結婚とは異なりますが、結婚運が壊れている宿命の人には、このような結婚をするとうまくいきます。宿命に合っている結婚だからです。

☞ 結婚の姿・形にこだわってはいけません。

このような結婚の形は、初めから結婚自体に障害があるのとおなじだと考えるわけです。

でも……それだからこそ良いのです。

結婚運の悪い宿命の人は、このような結婚は合っています。

最初から、結婚に問題を抱えているのとおなじなわけです。

その人自身が問題を含んだ結婚運（結婚運が崩れている）をもっているわけですから、このような結婚をするとうまく行きます。

それゆえ再婚者が相手でも良いわけです。

ほかにどのような結婚が向いているのでしょうか……？

年齢差の大きい結婚

年齢差の大きい結婚については条件があります。

算命学には……少なくとも「10歳以上の年齢差」という決まりがあります。

年齢差の大きい結婚 ⇒ 10歳以上

〔9歳〕は駄目ですよ。

〔10歳〕以上—— 離れてないとダメです。

なぜかといえば、10年経つと暦こよみのうえでも「甲乙丙丁戊己庚辛壬癸」と、十干のすべてがまわります。

この一巡り（ひとめぐり）以上離れていると、世代が違うと考えます。

「10年一昔」といいますが、10年以上も生まれ育った時代が違えば、世代が違うと考えています。

しかし、『10年以内だと同世代』だと考えます。

結婚運の悪い宿命の人で、年齢差の大きい結婚というのは、相手との年齢差が〔10歳〕以上です。

年齢が離れた人と結婚する場合、〔10 歳以上〕^{ねんれい} 年齢が離れていますから、これはバランスの悪い結婚になります。結婚運の悪い宿命の人には適合します。

参考：適合〔よくあてはまること〕 参考：適応〔ある条件や要求に合うこと〕

☞ 逆に……「結婚運のよい宿命の人」もたくさんおられるわけです。

「結婚運のよい宿命の人」が、「結婚運の悪い宿命」の結婚をしてしまうと、うまくいかなくなります。

結婚運がよい宿命には、その人物との釣り合いがよくとれた結婚が適合します。

そうであるのに……釣り合いが崩れた結婚（二人の調和がとれていない結婚）をしたのであれば、宿命からは外れた結婚ということになります。

☞ かなり前に話題になりましたが、小柳ルミ子さん（歌手）

と結婚して、別れた大澄賢也さん^{おおすみけんや}（ダンサー）の二人です。

大澄さんは結婚運がよい宿命といえます。それなのに 10 歳以上も年上の小柳ルミ子さんと結婚したわけです。

彼は自分の宿命に^あ合わない悪い結婚をしたことになります。

＊ 小柳 ルミ子 1952(s27)-7-2

	己	丙	壬		司禄星	天堂星	9 壬子
寅	酉	午	辰	鳳閣星	龍高星	石門星	19 癸丑
卯			乙 男	天貴星	玉堂星	天禄星	29 甲寅
		己	癸				39 乙卯
	辛	丁	戊				49 丙辰

男【乙】はいますが、正式な夫になる「甲」がない。

1988 「戊辰」暮れに意気投合

1988 「戊辰 1-6(入籍)小柳ルミ子 [36 歳]

＊ 大澄 賢也 1965(s40)-10-26

	癸	丙	乙		鳳閣星	天報星	7 乙酉
寅	丑	戌	巳	車騎星	牽牛星	司禄星	17 甲申
卯	癸	辛	戊 妻	天南星	司禄星	天堂星	27 癸未
	辛	丁	庚				37 壬午
	己 女	戊 妻	丙				47 辛巳

妻になりうる【戊】は2つあり、正式に妻とよべない女【乙】がいる

1988 「戊辰 1-6(入籍)大澄賢也 [23 歳]

このお二人にはさまざまなことがいえますが……。

小柳ルミ子さんの宿命には、男はいますが結婚相手の（夫）はいませんから結婚運の悪い女性です。それだから、結婚できないということではありません。彼女の宿命に即する結婚をすればよいのです。参考：即する〔ぴったりとあてはまる〕

大澄賢也さんは結婚運のよい宿命といえますが、女だらけの宿命です。彼が小柳さんと結婚したとき「ほかに交際していた女性がいてもおかしくない」と書いてあります。

⇒ 2人の年齢が離れていると、結婚はうまくいかないとは決まっています。

年齢が近い結婚がうまくいくとも決まっています。年齢が離れていたほうが、宿命に合っている人もいれば、結婚相手と年齢的にも釣り合いが取れていたほうがよい人もいます。それは宿命によります。

⇒ 結婚運の悪い宿命なら、結婚相手の^{からだ}身体が悪ければよいのでは……と考える方もおられるでしょう。

相手が病弱であることでも、うまくいくのですが、その人が病弱になったこと事態に、別の要因があると

も考えられますので、病弱ではないほうがよいです。

参考：事態〔物事などのなりゆき〕

なぜなら、その人が本来の宿命から、どこか外れている部分があるために病弱になるとか、障害になって出てしまうとか、そういう問題も重なってきます。

実際的には、相手が病弱ではなくて、二人ともに元気で幸せになるほうがよいわけです。

⇒ 国際結婚では、二人が一緒に生活していくときに、相手が外国人だと、生まれ育った文化・習慣も大きく異なります。言葉も通じない部分があるでしょう。

国際結婚は、最初から相手とのあいだに、溝みぞがあるようなものです。最初から溝があるわけですから、溝のある箇所は壊れています。国際結婚が悪いということではなくて、そういう考え方をします。

国際結婚

国際結婚は、結婚運が悪い宿命の人には向いています。

最初から相手とのあいだに溝みぞがあるわけです。初めから、その結婚はどこかが壊れているようなものです。

それゆえ、結婚運が悪い宿命に適合しています。

☞ 別居結婚はどのような理由でも構いません。

夫婦が自分たちの意志で別居しているのもよいです。

あるいは、どちらかが^{たんしんふにん}単身赴任で、仕方なく別居生活になっているのもよいのです。

別居結婚

結婚したのに、別々に暮らさなくてはいけないというのは、結婚生活が^{こわ}壊れているようなものです。

夫婦でありながら一緒に住んでいないのは、その部分が^{くず}崩れている結婚です。そのように考えるわけです。

結婚運の悪い宿命の人は、このような結婚に合っています。

結婚運の悪い人が結婚をして、ご主人が単身赴任とかで離れ離れになると、むしろ夫婦仲がよくなったりします。

ところが……戻って来て一緒に暮らし始めると、夫婦仲が悪くなってしまうことも起こります。

それゆえ「たまにしか合わないけど仲がよいの」というご夫婦も世の中にはいるわけです。

それは結婚運が悪い宿命の人なのです。

☞ もう1つ大事な結婚があります。

「結婚運が壊れている」それを『家庭が壊れている』と考えたときに、どのような家庭の状態は壊れているのでしょうか……？

結婚すれば、ふつうは子供ができます。

ところが、結婚して子供が生まれなければ、その結婚は壊れている結婚になります。そのように考えます。

このことは、夫婦仲がとてもよくても、あるいは夫婦ともに、子供を欲しくなくて、それにつくらなかったという理由があるとしてもです。

反対に……子供を欲しくても出来なかったという理由であろうと、子供がいないというだけで、本来あるべき結婚の目的を達成できていない結婚と考えるのです。

人間も生き物である以上、男女が結婚して子孫が生まれなければ……人類は滅びます。

これは人間以外のどんな動物でもそうです。

オスとメスが一緒になる最大の理由は、子孫を残すことです。

これが自然の摂理です。

人間は知能が高いので「私たちは子供を欲しくない」と考えたりしますが、自然の摂理からすれば、子孫を残さない結婚というのは……自然の姿とかけ離れている結婚だと考えます。

そうしますと、結婚運が壊れている宿命の人には、子供のいない結婚(子供ができない結婚)は即するということになります。

参考：即する〔ぴったりとあてはまる〕

子供のいない結婚

本人たちが、それを希望したのか、しないのかに関係なく、子供がいないのは、どこか自然に即さない家庭だと考えています。

参考：即さない〔ぴったりとあてはまらない〕

☞ とても結婚運の悪い宿命のⒶさんがいます。

結婚運の悪いⒶさんが、結婚しようとしている相手のⒷさんは再婚でもなく、国際結婚の経験もなく、年齢もⒶさんと釣り合いが取れています。Ⓑさんの結婚運はよいわけです。この状況下で、結婚運の悪いⒶさんが、Ⓑさんとの結婚を望んでいるし、結婚運のよいⒷさんも望んでいます。このような場合は「子供をつくら

ないほうがよいですね] と、助言^{じょげん}することもあります。

[子供に問題が生じる可能性もあるからです]

☞ 「結婚運が悪い宿命の人」についてということで、

いくつか^{れっきよ}列挙しました。 参考：列挙 [並べてあげること]

ここまで^あ挙げた結婚の状態は……宿命に合っていますから、宿命どおりの結婚ということになります。

そういう結婚をすると幸せになれます。

参考：列挙 [並べてあげること] 参考：適合 [よくあてはまること]

結婚運が悪いのに、お互いに釣り合いが取れた結婚、お互いのバランスがよい相手と結婚してしまうためにうまくいかなくなるのです。

それは宿命に適合していないからです。

算命学はこのように考えるわけです。

☞ ただし……相手側はまた別ですよ。

相手もこういう結婚が合っているとは、決まっていません。それゆえ、お二人の宿命を観て判断します。

ご理解いただけますでしょうか……。

⇒ 「夫になる男性は結婚運が悪い」
「妻になる女性は結婚運がよい」

とします。

夫になる男性は ⇒ 結婚運が悪い（初婚）

妻になる女性は ⇒ 結婚運がよい

→ × 1（バツイチの女性）

この男性は結婚運の悪い宿命ですから、（× 1）の女性と結婚するのは宿命に合っています。

女性は結婚運がよいのですから、（× 1）ではなくて、しっかり夫の役目をしてくれる男性と結婚すれば宿命に合っています。

このような組み合わせだと……結婚はうまくいきます。

⇒ 相手との組み合わせを、具体的に観ていくことで、この人の場合は「こういう結婚がいいですよ」とか、この人の場合は「このほうがいいですね」とかを決めていくようになります。

⇒ 結婚には「相性」もあります。

その観方も上級になりまして勉強するようになります。

「結婚運が悪い宿命の場合はこうですよ」とお伝えしました。

結婚運が悪い宿命は、何種類かあるわけですけど……ここまでお伝えしたように考えてゆくことになります。

前回『人体図の見方②』47頁で、雅子様の宿命を観たときに子供の星がなかったわけです。

子供の星がないからといって、その人は子供を生んではいけません。ということではないのです。

このことは間違えないでください。

雅子様の人体図に〔鳳閣星・調舒星〕という子供の星はないですから、「子供にこだわらない生き方、子供にとらわれない生き方をするとよい」ということでした。つまり、どのような宿命であっても、その宿命に即した生き方が必ずあるのです。即する〔ぴったりとあてはまる〕

これから^{あと}後……学びが進むにつれて、「財運が悪い宿命」とか「親と縁がない子供の宿命」とか、さまざまな宿命が出てきます。そのときに『これはよくない宿命だと……おもわないでください』このことはとても大切です。

必ず、その宿命に適合した生き方があるわけです。
その人でなければ、果たせない役目があるのです。

参考：適合〔よくあてはまること〕

〔たとえば〕世の中の人たちすべてが、おなじような結婚をしたら、世の中の発展も、進歩も、多様性も、なくなってしまうでしょう。

そのなかには……国際結婚をする人物も現れて、この夫婦の子供はハーフになります。

人類にとっても、民族的にもニュータイプです。

そういう子供が生まれて成長して、世の中の進歩発展に貢献こうけんできることになります。世の中に物事が新しく出現することになります。参考：坩堝〔種々が入りまじった状態〕

ご存知のように、アメリカは人種の坩堝るっぼです。

そのなかからスーパースターが生まれています。

音楽の世界・スポーツの世界・科学の世界もです。

それゆえ、結婚運が悪い人にも役目があるのです。

その人でなければ……できない結婚があるわけです。

算命学はそのように考えています。

上級生になると、さまざまな結婚の姿が、鑑定の例題としても出てきますから、具体的によくわかるようになります。

ここでは……「運勢」はこのように考えていきます。
と、ご説明しました。

勉強が進んでいくようになりますと『すごく運勢が悪い宿命』の人もあります。

『ひどく運勢が悪いなら、不幸になるしかない……』
そうではないのです。

『運勢が悪い人は、こういう生き方が合っています』
という考え方が算命学にあります。

〔たとえば〕運勢がとても悪い人は、人の嫌がる仕事に就きなさいとか、人の嫌がる汚い仕事とか、きつい仕事、危険な仕事、いわゆる3Kの仕事に従事するとよいのです。

その生き様は、宿命に合った生き方になります。

そうすることで、宿命が活きてくるのです。

『魂』を磨き、人間性を高めることにもなります。

自然の意思は、見掛けではないのです。

まこと

真の姿を見いだすのです。参考：見掛け〔外見・うわべ〕

運勢がとても悪い宿命の場合は〔^{ていさい}体裁のよい生き方〕

〔表面を飾るような生き方〕あるいは〔楽な生き方〕

を選んでしまうと宿命から^{はず}外れてしまうのです。

『^{たましい}魂』を磨いて人間性を高めることによって、運勢を安定させます。

宿命から外れると、結果的に運勢が^{かいか}開花しません。

参考：開花〔ものごとの成果がみのること〕

宿命に「苦勞が多い」と書いてあれば、苦勞が多い生き方、あるいは、苦勞が多い仕事を選ぶことによって、その人は役目を果たして、その人なりの幸せになれる生き方になってゆくのです。

運勢を観るときには、このような考え方も横たわっています。

これらのことは……頭に入れておいてください。

☞ 一般に「努力すれば報^{むく}われる」といわれます。
算命学には『そういうことはない』とする考え方があ
ります。

それはどうしてなのかといえ、各人にはそれぞれの
遣^{やりかた}り方、それぞれの生き方があるからです。

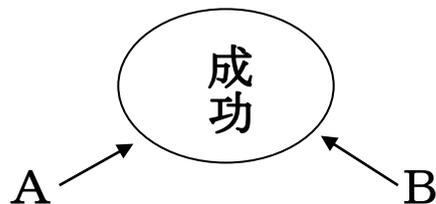
参考：遣り方〔物事をおこなう方法〕

端的^{たんてき}にいえば「何を目標に努力するのか」「どこに向かって
努力するか」ということです。 参考：端的〔率直なさま〕

「いくら努力しても、報われ^{むく}ない分野」もあります。

「この分野なら、報われ^{むく}る」という分野もあります。

〔たとえば〕 何の分野でもよいのですが、ここに成功
したAさんがいます。お金で成功したでもいいですし、
知恵で学者として成功したでもいいです。



Aさんが「私はこういうやり方をして成功しました」
といったとします。

それなら…… B さんも、おなじやり方をすれば、成功しそうに^{おも}想えますけど、「成功しません」というのが、算命学の考え方です。

- ① 何に向かうのか？〔なに対して努力するのか？〕
- ② そのときのやり方

この 2 つがありますが、「各自それぞれに異なる」と、考えています。

算命学は「宿命どおりに生きなさい」といいます。

水準はありますが「その人なりにやれば、その人なりの成功がある」としています。

参考・水準〔物事の価値や作用の一定の基準〕〔世間で通用する標準〕

〔たとえば〕1 万円儲かった人と、100 万円儲かった人では、どちらが成功したのかわからないのです。

それは年齢なども影響します。

小学校・低学年の子供にとっては、1 万円は大きいお金でしょう。大人にとって 1 万円は小さいわけです。

スポーツの競技選手として、一流になろうと努力しても……その人に向いていなければ、いくら努力しても無理です。

二流になれたとしても、一流になることは絶対にできません。

二流になるのも、^{しなん}至難^{わざ}の技といえるかもしれません。

「努力が報われる」そうなるには、まずはそのことに対する素質があり、それに向かい合うだけの才能があり、そして努力した結果として報われるわけです。これは芸術の分野でもそうです。

一流のピアニストになろうと努力してもなれません。このことはあらゆる分野に共通していえることです。それゆえ、算命学は「宿命どおりに生きなさい」という言い方をしているのです。

参考・素質〔個人が生まれつきもつ、性格や能力などの基になる能力〕

参考・才能〔個人の一定の素質、または訓練によって得られた能力〕

参考：至難〔このうえもなく難しいこと〕

☞ ここに「結婚運のよい人」います。

結婚運のよい人は、一般的な（ふつうの）結婚をするのが「宿命どおり」と考えています。

☞ ここに「結婚運の悪い女性」がいたとします。

そうすると「宿命どおりに生きなさい」ということですが、結婚して不幸になるのが、宿命どおりなのかという疑問が出てきますよね。

結婚運が悪いから、結婚すると、すべて失敗する。ということは考えていません。

結婚運が悪ければ、結婚運の悪い（一般的でない）結婚をすればよいと考えています。

結婚運が悪いというのは、この場合“不完全な結婚“を意味し、不完全な結婚に向いているのです。

釣り合いの取れない結婚に向いているということです。

☞ 不完全な結婚の姿ということで列挙します。

つぎの頁 ➡

- ❖ 女性が年上で、男性が年下の結婚。
- ❖ 別居結婚（仲が悪いのではなく、単身赴任・海外赴任とか
遠洋漁業など）
- ❖ 夫は〔10歳以上〕妻より年上の結婚。
- ❖ 家の格の違う結婚（相当に家格の開きがないと、格が違う
とはいいません）
- ❖ 身障者の結婚（片方でも、身障者同志でもです）
- ❖ 妻が働く（妻が主で働きます）
妻が家計の助けにパートをやっているのは別です。
- ❖ 国際結婚（1番釣り合いの取れない結婚と考えます）。
結婚はお互いに育った環境などの共通項きょうつうこうが多いほど馴染み
やすいのですが、国際結婚は環境も言語も違います。
それなのに結婚生活がうまくいくのは、結婚運が悪いからと
いえます。参考：共通項〔二つ以上のものに共通して存在する要素〕

❖ 再婚相手との結婚（完全な結婚の姿は初婚同志です）

〔たとえば〕女性を基本に設定します。

結婚相手の男性に子供がいたという場合に「その女性の結婚がうまくいった」とすれば、その女性の結婚運が悪かったということになります。

❖ 再婚同志の結婚

再婚しても、再々婚しても、うまくいかなかったというのは結婚運のよい人です。結婚運がよいのに、初婚のときに自分と相性の悪い女性（または男性）と結婚したから、離婚になったわけです。

もともと結婚運が悪い人は……再婚のときに、結婚運の悪い自分に適した相手に巡り会えるわけです。

しかし、再婚とかで、何度結婚してもうまくいかないのは、「もともと結婚運がよい人」ということでもあるわけです。それゆえ、何度結婚してもうまくいかないのです。

❖ 子供のいない夫婦

結婚の大きな理由の1つは「結婚すれば子供が生まれる」ということがあります。それは「子供が生まれてから結婚が完成する」

という考え方があります。

そうしますと……結婚運が壊れている宿命の人には、子供のいない結婚が適合していることとなります。 参照 20～21 頁

⇒ 結婚にはそれぞれに適合した^{すがたかたち}姿形があります。

結婚運が悪いから、結婚して幸せになれないとは限らない。

結婚運がよいから、結婚して幸せになれるとは限らない。

「この選択を間違ってしまうと不幸になりますよ」ということなのです。

いっばんてき
一般的には「結婚運がよい人」のほうが選択の範囲は広いです。

「結婚運が悪い人」のほうが選択の範囲狭いです。

でも……宿命どおりに^{みち}途を歩めば幸せになれます。

参考：一般的〔特別は物事に限らないで、広く通じる状態であるさま〕

参考：選択〔適当なものをえらびだすこと〕

☞ 「財運が悪い」とか「頭が悪い」とか、そのような人がいれば、その宿命に書かれているように生きればよいのです。財運が悪いのに一生懸命に金儲けをしようとするからお金で苦しむのです。



袋にお金をいくら入れても、穴が開いているために、お金が出てしまいます。これは財運が悪いということです。

そうしますと、「財運の悪い人」はどのような生き方をすればよいのか……ということになります。

これは学者にしても、将棋の世界でもおなじです。

「どうすればよいのか……」です。

頭が悪い人は、知恵に^{こしつ}固執した生き方をするとダメですが、知恵にこだわらなければそれなりの世界で知恵を発揮できます。

〔たとえば〕「財運のよい人」がいたとします。
その人はお金儲けの知恵があるということです。
しかし、学者としての知恵ではないのです。

〔たとえば〕健康運の悪い人もいますけど、その人は
病気になれば、宿命どおりなのかといえ、そうでは
ありません。

☞ ^{こゆう}固有の宿命のなかで、個人の運勢を論ずることがで
きます。参考：固有〔もともと持っていること〕

宿命のなかで「これを伸ばせばよい」とおもえるもの
は、1つくらいかも知れませんが、それを活かせばよ
いのです。宿命のなかにある「よいもの」を活かします。

それ以外の悪いものは……どのように扱^{あつか}えば物事が
進んでゆくのかということになります。

簡単にいえば……、

運がよいものには〔こだわって生きる〕ことです。

運が悪いものには〔こだわらないで生きる〕ことです。

宿命的に「何々には運が悪い」とでていれば、それに
相対するように、「何々には運がよい」とでているはず
です。

〔たとえば〕結婚でいえば……、
結婚運の悪い人は、些細^{ささい}なことにこだわると、結婚が
うまくいきません。
こだわらないことです。
そうすれば「よい結婚」になるのです。

参考：些細〔小さいこと。たいしたことではない事〕

参考：こだわる〔些細な点を気にかける〕〔その何かに気持ちにとらわれる〕

〔そのものごとに深い思い入れをする〕

❖ ひとつ〔例〕を挙げましょう。

❖ ^{たくま}宅間 ^{まもる}守 1963(s38)-11-23

	庚	癸	癸		調舒星	天報星	6 壬戌
戌	午	亥	卯	玉堂星	鳳閣星	司祿星	16 辛酉
亥		甲		天恍星	調舒星	天印星	26 庚申
	己		癸				36 己未
	丁	壬	乙				46 戊午

守護神

2001-6-8 大阪・国立池田小学校へ乱入（児童8人を刺殺）

人体図はとても頭のよい宿命です。人体図の主星は〔鳳閣星〕で縦線に〔調舒星〕が2星あります。

多い星を消化しなければならないのが算命学の考え方です。

特に主星〔鳳閣星〕、〔調舒星〕2星があてはまります。

これら3星は〔縦線の星・精神性の星〕です。

この星に向く職業ということでは、学問・芸術の分野ですが、彼が殺人を犯したという事実からして、これらの星を消化していなかったことといえます。

彼は合コンのパーティーで「精神科医」の名刺を提示していたようですが、その分野の資格をもっていません。

高校を中退して自衛隊に入隊しますが、1年ほどで除隊しています。その後に、婦女暴行などで懲役の実刑判決を受けて刑務所に収監されます。

「精神科医」ではなく、学歴も名誉もなく、あるのは犯罪歴です。これでは精神性の星〔3星〕が未消化になります。

このように宿命に反したな生き方は……運がよいものにこだわって生きていない姿です。

本来の生きるべき道筋を誤ると運勢はどんどん下降します。簡単にいえば、宿命どおりの生き方ではなかったのです。

⇒ 上級になると、「^{しゅごしんほう}守護神法」を勉強しますが、彼にとって第一に必要な守護神は日支（午）の本元にある〔丁火〕です。

守護神は「宿命を^い生きやすくしてくれるもの、^い活かしやすくしてくれるもの」そのように考えておいてください。霊的ではないですよ。

彼の日干「庚金」から、その丁火をみると、〔牽牛星〕という十大主星になります。

牽牛星を五徳〔福寿禄官印〕になおすと、〔官〕になります。

〔官〕の意味は〔名誉・地位〕と考えてください。

ところが、彼には学歴がない、資格もない、地位もないわけです。それなのに「精神科医」の名刺をだすのは、学歴などへの劣等感の現れです。過度の劣等感があったわけです。

その卑屈^{ひくつ}な劣等感が「小学校から高等教育の道へ進む児童」に向けられたと考えられます。

ここでなにを申しあげたいのか……、

⇒ 固有の宿命を観て、個人の運勢を論ずることができます。

これを伸ばせばよいと想^{おも}えるものは、1つくらいかも知れませんが、それを活^いかせばよいのです。と書きました。

よいものを活^いかして「こだわって生^いきる」ことです。

彼の宿命でいえば、〔鳳閣星〕〔調舒星〕にこだわって生きるということです。

「水^{すいか}火^{げきとつ}の激突」もありますから、精神の葛藤^{かっとう}も激しいです。

十二大従星は身弱ですから精神性が強いです。

宿命は精神的なほうへ傾いていますから、精神性にこだわらないで生きると、運が悪くなるといえるのです。

精神的の反対は現実的、端的にいえば、もの・お金・名誉とかです。ここでの運が悪いものというのは現実的なことです。

それを得るためには、まずは精神的な部分を消化することからはじまります。〔鳳閣星・調舒星〕を消化することで……それなりの現実的な事柄はあとから付いてくるのです。なぜなら、研究者の道を歩めば、それに相当する金銭なり、名誉なりが付いてくるわけです。

算命学は「宿命どおりにいきなさい」「宿命を消化しなさい」という言葉がたびたびつかわれます。

〔宅間守〕でいえば、まずは〔鳳閣星・調舒星〕を消化することなのです。

ご理解しにくい部分もあるかと想いますが、上級に進むにつれて、納得して頂けるようになります。

参考：精神的〔精神に関係のあることを重んじるさま〕

参考：現実的〔現実に即している。実利にさといさま〕

〔理想や夢がなく、目前の実利にのみとらわれているさま〕

【初年】 5 1 回目【運勢論】 終わります

つぎの授業 ⇒ 【初年】 5 2 回目【十二大従星指数】

【エネルギー論】